

日本高専学会

# 第28回総会議案書

期 日：2022年5月28日（土）

オンライン会議

## 会長あいさつ

山下 哲

第28回の総会を迎えるにあたり、会員の皆様には、本会の発展のために日頃からご協力とご支援を賜り感謝申し上げます。昨年度から会長を拝命し、この1年間、学会の更なる発展のために理事と共に尽力して参りました。今年度も会員の皆様のお役に立てるよう精一杯尽力いたしますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度も新型コロナウイルス感染症対策に追われた1年でした。周期的に新型コロナウイルス感染拡大が生じ、まん延防止等重点措置が施行され、遠隔授業が余儀なく実施されました。また、家庭内感染がまん延し、高専から自宅待機を命じられた学生も受講できるよう、対面授業と遠隔授業の併用できるハイブリッド型授業の実現が期待されております。今後も新型コロナウイルス感染症が周期的に拡大し、遠隔授業だけでなく、ハイブリッド型授業が実施され、最低限の質保証が確保されるよう尽力していく必要があります。これまで培われた遠隔授業、学生支援、実験・実習などのノウハウを共有し、ハイブリッド型授業を実現するための足掛かりとなるよう、日本高専学会の活動を活性化させていきたいと考えております。

日本高専学会が皆様にとって実り多き場を提供できるよう真摯に取り組みますので、今後とも引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年5月28日

# I 2021年度事業報告

## 1. 会議

### 1.1 総会

2021年05月22日(土) 於: WEB会議

### 1.2 理事会

第1回理事会 2021年5月22日(土)・23日(土) 於: WEB会議

第2回理事会 2021年9月2日(木)・4日(土) 於: WEB会議

第3回理事会 2021年12月4日(土) 於: WEB会議

第4回理事会 2022年2月5日(土) 於: WEB会議

## 2. 各部会報告

### 2.1 研究部会 部会長: 山下哲

#### (1) 学会誌編集委員会 (編集委員長: 宇野宏司)

2021年度には発行予定であった4冊の学会誌(26巻2号, 26巻3号, 26巻4号, 27巻1号)を予定通り発行した。26巻2号では「コロナ禍における高専教育」と題して特集を組み, コロナ禍における各高専での遠隔授業等の取り組みや感染源対策などを紹介した。26巻4号では「高専のグローバル化への取り組み」と題し, 鹿児島・津山・八戸・明石・茨城・富山の各高専におけるグローバル化への取り組み事例を紹介した。

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため, 2021年発行の学会誌より, 年4回の学会誌のうち2冊を論文特集号としWEB掲載のみ(冊子体での配布を行わない)としている。26巻3号は「第16回論文特集号」, 27巻1号はWEB掲載の「第17回論文特集号」として高専教職員の教育・学術研究の成果をまとめ, 広く世間に公表する役割を果たした。

#### (2) 論文審査委員会 (委員長: 神田佳一)

2021年度に受理した投稿論文総数は, 第27回年会講演会(オンライン)での推薦論文11編, 一般投稿論文9編の計20編であった。査読審査を行い, 2021年12月末までに査読を通過した論文1編を学会誌(第26巻1号)に掲載した。また, その後掲載可となった論文12編を学会誌(第26巻3号)に掲載予定である。

なお, 投稿論文の査読体制は一件当たり2~3名の査読者を維持しており, 延べ43名の委員に査読を依頼した。

#### (3) 表彰選考委員会 (委員長: 南部幸久)

a) 2021年度「研究奨励賞」の募集および審査等を行った。全国13高専から16件の申請があり, 申請論文の分野別内訳は, 機械系6件, 電気・電子・情報系6件, 物質・化学・生物系3件, 建築・土木系1件であった。これら16件のうち, 7件が第一次審査を通過し, 第二次審査において最優秀賞1件, 優秀賞3件が選出された。これらの審査結果については, 総て会長による了承が得られ, 各賞が授賞された。

## 2021年度 研究奨励賞

### 最優秀賞

- 1) 学生氏名：浦上 大世(うらかみ たいせい)  
所 属：香川高等専門学校 専攻科 電子情報通信工学専攻  
研究題目：インターディジタル・マルチビア構造メタサーフェス反射器

### 優秀賞

- 1) 学生氏名：山下 想叶(やました そうと)  
所 属：神戸市立工業高等専門学校 専攻科 機械システム工学専攻  
研究題目：Al/Ni 多層粉末材料の発熱特性制御に関する基礎的研究
- 2) 学生氏名：森 菜々子(もり ななこ)  
所 属：長岡工業高等専門学校 専攻科 電子機械システム工学専攻  
研究題目：ヘテロ積層構造制御による CZTS 薄膜太陽電池の高品質化に関する研究
- 3) 学生氏名：平澤 晃大(ひらさわ こうた)  
所 属：旭川工業高等専門学校 専攻科 応用化学専攻  
研究題目：アルミニウム合金の防食を目指した自己修復性塗膜の開発

- b) 2020年度「活動奨励賞」の募集を行い、表彰選考委員会で審査を行った。全4高専から4件の申請があり、厳正な審査の結果、2件の活動奨励賞とともに2件が活動奨励賞特別賞として選出された。これらの審査結果については全て会長による了承が得られ、受賞を確定した。なお、昨年度の年会講演会がオンラインに変更となったため、受賞講演等は実施しなかった。

## 2020年度 活動奨励賞

### 【活動奨励賞】

- 1) 受賞者：山口 ひより・チャルーンナパーラット・ナパット  
所属校：長岡工業高等専門学校  
活動名：EAT SAKANA SET 地方創生☆政策アイデアコンテスト2020 未利用魚を活用した多国籍料理キットの開発
- 2) 受賞者：米子高専リケジョ支援チーム  
所属校：米子工業高等専門学校  
活動名：山陰地方における女子中高生を対象とした理系女子支援活動

### 【特別賞】

- 1) 受賞者：富山高等専門学校 鉄道部  
所属校：富山高等専門学校  
活動名：鉄道ジオラマの富山県等主催イベントへの展示を通じた地域貢献
- 2) 受賞者：アマチュア無線研究会  
所属校：福井工業高等専門学校  
活動名：全国高等学校アマチュア無線コンテスト三連覇

c) 第 27 回年会講演会において、下記のように優秀発表賞 6 件の表彰を行った。

### 第 27 回年会講演会優秀発表賞

#### 優秀発表賞

- 1) 受賞者：高瀬 睦月（明石高専）  
題 目：水叩き下流の護床工下部の砂の吸出しと河床変動に関する実験的研究  
(No. P1-3)
- 2) 受賞者：中田 竣（大阪府大高専）  
題 目：IMU を用いた人間の腕動作によるロボットティーチングシステムの構築  
(No. P2-1)
- 3) 受賞者：藤野 智仁（有明高専）  
題 目：高電圧ワイヤーメッシュセンサによるボイド率分布測定における流動様式の  
影響  
(No. P1-8)
- 4) 受賞者：高橋 諒（富山高専）  
題 目：拡張現実感を用いた作業支援システムの開発  
(No. P2-12)
- 5) 受賞者：馬場 悠汰（広島商船高専）  
題 目：マシュー型半分線形微分方程式の解の非振動性  
(No. P1-14)
- 6) 受賞者：飯田 縁（富山高専）  
題 目：飯田 縁  
(No. P2-16)

#### (4) 企画委員会（委員長：松本高志）

##### a) 研究助成制度

日本高専学会では 2021 年度に研究助成制度を創設し、高専教育に貢献する研究への支援を行っている。2022 年度には計 7 件の応募があった。研究助成審査委員会を設置し、松本高志を委員長とした 5 人の委員が厳正な審査を行った結果、次の 2 件の研究課題が採択された。

1. 研究課題：「異文化間コミュニケーショントレーニング」  
研究代表者：河野 麻弥（香川高等専門学校 詫間キャンパス 一般教育科 非常勤講師）
2. 研究課題：「高専リカレント教育の実態と社会的期待発見」  
研究代表者：多田 豊（阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 建設コース 准教授）

##### b) シンポジウム

2022 年 5 月 28 日（土）の総会後に実施されるシンポジウムについて委員会で検討し「地域連携」をテーマに 3 件の講演およびパネルディスカッションの実施を計画した。

#### テーマ 地域連携

##### 概要

高等専門学校は、地域の拠点となる「KOSEN コモンズ」として、地域に開かれた存在としての地域貢献が求められています。特に最近ではイノベーションを創出するアントレプレナーシップ教育強化、地域における早期 STEAM 教育強化が期待されています。そこで、地域連携の活発な事例をもとに情報交換の場を設けます。

## プログラム

- 14:55～ 主催者挨拶（山下哲会長）
- 15:00～ 多田 豊 阿南高専における自治体、民間団体と連携した地域防災教育の取組
- 15:30～ 岸 拓真 広島商船高専における起業家育成の取組
- 16:00～ 外山茂浩 「長岡版イノベーション」をけん引する AIR Tech リーダーの育成
- 16:30～ 質疑応答・パネルディスカッション

## 2.2 運営部会 部会長：鈴木昌一

### (1)財務委員会（委員長：榎間由幸）

2021年度会計は、年会講演会のオンライン化、理事会のオンライン化により、繰り越し金額は1,671,748円であった。

2022年度予算案は、収入については昨年度からの繰越金によって昨年度予算比で118千円の増収となる。支出は、新たに会員管理クラウドサービスの経費計上によって118千円の増額となる。この増額は、今年度は昨年度の繰越金をもって充てる。来年度以降の年間利用料は、理事会等会議費を減額することによって埋める。

近年、学会会計は論文投稿の減少によって減収傾向にあります。会員の皆様には、積極的な論文投稿によって、学会運営へのご協力をよろしくお願いいたします。

### (2)役員選考委員会（委員長：山下 哲）

2021年度は役員改選の実施年度ではなく、活動は行っていない。

### (3)年会実行委員会（委員長：山下 哲）

日本高専学会第27回年会講演会は、当初、富山高専での実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の流行に配慮し、2021年9月3日（金）、4日（土）の日程でオンラインでの開催となった。講演会の参加人数は、教職員・シニア・一般が104名、学生が31名の合計135名であった。発表数は、一般講演41件、学生発表31件の合計72件であった。

### (4)広報委員会（委員長：坂東将光）

日本高専学会第28回年会講演会の参加・発表申し込みページ、第28回総会開催ページ、第24回シンポジウム開催ページを作成し、問題なく運用できている。また、メーリングリストの入退会についても管理を行った。

## 3. 研究所活動

### 3.1 ブレイクスルー技術研究所（所長：大成博文）

#### 1. マイクロバブル研究会

2015年7月に発足させ、2020年4月までで合計で55回の研究会を開催したが、コロナパンデミックのせいで、同年5月以降は休会している。しかし、各部会の活動は継続しているので、その概要を報告する。

##### ①七島イ部会

従来不可能とされてきた七島イの二期作栽培に挑戦している。東京のCコンサルタントと

九州大学都市研究センターが国東の振興に関する協定を国東市と結んだことが契機となり、そのCコンサルタントの協力を得て、七島イの二期作を実現させ、さらに、それを産業化させるための協議を3カ月に一度の割合で実施した。また、Cコンサルタントにおいては古民家を再生させた際に、七島イ壘を採用したいという要望があった。引き続き、国東市の振興に関しての協議を継続させていく予定である。

## ②農業部会

地元のネギ農家と協力しての無農薬、無肥料の光マイクロバブルネギ栽培の共同研究を行った。その結果、収穫したネギを、さらに光マイクロバブル水耕栽培することで、品質の向上が可能であることが判明した、また、光マイクロバブルネギの料理方法について共同での研究を行い、その格別の料理方法を見出した。

なお、本ネギ農家は、これまでの農協への出荷を取りやめ、自主的な販売網での出荷を目指しており、その販売支援も行う。

## ③ペット洗浄部会

ペットの口腔ケア問題が重大になってきていることから、その試験を地元の高名なペットのトリマーに依頼し、良好な結果を得た。また、この青果が注目されるようになり、全国的にも有名なトップトリマーによる口腔ケア試験を行うことになった。

これらの研究会活動は、ブレイクスルー技術研究所が支援し、協力する活動として発展している。

## 2. 医療福祉プロジェクト

新たな補助金（大分県）2つが採択され、中津市のK整形外科病院および同病院の介護老人保健施設、さらにはW歯科医の三者による共同研究を実施した。また、それらの成果報告書を作成し、提出した。

とくに、歯科医における口腔ケアにおける共同研究においては、歯周菌ケアに関する重要な成果を得た。また、歯科専用の各種洗浄装置を開発した。

## 3. 植物工場支援プロジェクト

沖縄県恩納村における植物工場の支援を行った。また、茨城県かすみがうら市においても中型の植物工場が設置され、その支援を行った。後者に関しては、月1回のテレビ会議を開催し、その都度、重要な技術指導と情報交換を行っていて、それに北海道の中小企業診断士も参加している。

## 4. 北海道ウニ・昆布プロジェクト

昆布の激減、生育不良、ウニの減少傾向が続いていることから、それらを再生させるためのプロジェクトを北海道のウニ業者と協力して発足させた。また、ブルーカーボンプロジェクトとして、沿岸域に昆布漁を再生させるための実験プロジェクト案を作成し、それをエネオスに提案した。また、それを受け、地元での取り組みの協議が進んでいる。

## 5. コロナプロジェクト

大学教員2名、高専教員1名、民間企業2名（代表者は大成博文（株）ナノプラネット・大成研究所）によるコロナプロジェクトを発足させた。当面、コロナ情報に関する情報交流を主として行ってきた。

## 6. 出雲プロジェクト

出雲市の地元コンサルタントからトマト栽培業者を紹介され、光マイクロバブル技術の導入を行ったところ、その生産量が約5倍に増加したという成果を得たことから、引き続き、その装置の導入が検討されており、その補助金獲得のための書類書きの支援を行った。また、上記コンサルタントからは、薬草栽培に関する相談案件が持ち込まれ、その試験を開始した。

## 4. 研究会

2021年度の総会において、一般科目の効果的AL教育法開発研究会が承認され活動を行った。数学、物理、化学、国語、英語、社会、体育の7科目において活動が行われた。活動ではオンラインミーティングやメール会議を活用し、メンバーの授業実践に関する情報交換や、AL型も含めた授業の報告、その授業に対する意見交換が行われた。また、その意見交換から授業を改善し、その実践報告も行っている。

## 5. 会員状況等 (2022年5月20日現在)

### 5.1 会員数と分布

会員数は、この1年間で5名増(入会26名、退会21名)の272名となった。また、種別ごとの会員増減数は以下のとおりである。

正会員	(239)	入会21名、退会8名、計13名増
学生会員	(5)	入会0名、退会10名、計10名減
シニア会員	(21)	入会5名、退会3名、計2名増
賛助会員	(7)	入会0社、退会0社、計0社増減なし

{正会員} 239名

北海道	6	函館(4)、釧路(2)
東北	16	八戸(5)、一関(1)、仙台(2)、秋田(1)、鶴岡(6)、福島(1)
関東	27	茨城(1)、小山(3)、木更津(18)、東京(2)、東京都立産業技術(1)、群馬(2)
北信越	11	富山(3)、石川(1)、福井(3)、長岡(2)、長野(2)
東海	9	沼津(1)、鈴鹿(8)
近畿	62	大阪公立大(21)、神戸市立(11)、舞鶴(4)、明石(3)、奈良(3)、近畿大(20)
中国	38	米子(5)、松江(6)、津山(6)、広島商船(2)、呉(1)、徳山(1)、宇部(13)、大島商船(4)
四国	17	香川(4)、新居浜(3)、弓削商船(1)、高知(2)、阿南(7)
九州	28	有明(13)、久留米(2)、佐世保(1)、熊本(1)、都城(2)、鹿児島(9)
高専外	25	大学関係(15)、高専卒業生、高専教職員OB、他

{学生会員} 5名

明石(4)、高専外(1)

{シニア会員} 21名

シニア会員 7名、終身会員 13名、終身会員・論文不要 1名

{賛助会員} 7社

片岡計測器サービス(株)(山口県山口市)、新日本製鐵(株)(千葉県富津市)、日本フェンオール(株)(東京都八王子市)、(株)学術図書出版社(東京都)、理想科学工業(株)宇部工場(山口県宇部市)、国立研究開発法人 科学技術振興機構(東京都)、メディア総研(株)(福岡県)

会員総計 272名 個人会員 265名、 賛助会員 7社



## 5.2 学会誌の購読等

### (1) 学会誌購読先

- ・ 広告掲載企業 2 社 :

株式会社学術図書出版社 (東京都), メディア総研株式会社 (福岡県),

- ・ 図書館等の購読 16 校 1 社 :

函館工業高等専門学校, 苫小牧工業高等専門学校, 釧路工業高等専門学校,  
秋田工業高等専門学校, 仙台高等専門学校 (広瀬キャンパス),  
舞鶴工業高等専門学校, 津山工業高等専門学校, 大島商船高等専門学校,  
有明工業高等専門学校, 都城工業高等専門学校, 神戸市立工業高等専門学校,  
大阪府立大学工業高等専門学校, 豊橋技術科学大学, 宇部工業高等専門学校,  
富山高等専門学校 (射水キャンパス), 大分工業高等専門学校,  
東京官書普及株式会社

### (2) 学会誌無料配布先

国立高専機構, 文部科学省, 大学改革支援・学位授与機構, 日本工学教育協会,  
読売新聞東京本社

に配布

## Ⅱ 2021年度決算

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

### 収 入

項 目	予算額	決算額	備 考
前年度から繰越	1,596,241	1,596,241	
会費(正会員)	1,610,000	1,643,250	
会費(シニア会員)	36,000	146,000	
会費(賛助会員)	70,000	70,000	
広告収入	110,000	80,000	
学会誌購読料	119,000	137,000	
学会誌別刷料・掲載料	150,000	198,900	
雑収入・利息	200,000	778,763	JST著作権抄録使用料 ¥2,640 年会実行委員会からの返金 ¥771,103 預金利息 ¥20 学会誌バックナンバー、講演論文集 ¥5,000
当年度小計	2,295,000	3,053,913	
合 計	3,891,241	4,650,154	

### 支 出

項 目	予算額	決算額	備 考
学会誌発行費	600,000	787,490	
年会運営費	500,000	500,000	
事務局経費	100,000	81,633	事務局長 ¥14,238 財務委員会 ¥24,519 ゆうちょ振替口座振込手数料 ¥21,756 三菱UFJ銀行 BizSTATION 利用料 ¥21,120
理事会等会議費	400,000	20,000	
学会誌編集委員会経費	300,000	147,386	
論文審査委員会経費	100,000	72,000	
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	72,067	
公募型研究助成金	500,000	500,000	
特別会計への繰出	797,830	797,830	
予備費	513,411	0	
当年度小計	3,891,241	2,978,406	
翌年度へ繰越		1,671,748	
合 計	3,891,241	4,650,154	

### 特別会計

項 目	予算額	摘 要
収 入	前年度繰越金	1,702,170
	一般会計からの繰入	797,830
	合 計	2,500,000
支 出	翌年度繰越金	2,500,000

### Ⅲ 2021年度会計監査報告


#### 監査報告書

2021年度収支決算の、相違ないことを認めます。

R4年5月18日

監査

権田 岳

権田 岳 

板谷 年也

板谷 年也 

### Ⅵ 2022年度事業計画（案）

日本高専学会は、1995年の設立以来、創造教育や技術者教育など高専が行う様々な教育を中心に総合的な研究を行っている。新型コロナウイルス感染症により活動が制限されているが、2021年度もオンラインにより総会や年会講演会を実施することができた。オンラインによる活動は移動時間や交通費などの利点があることから、学会活動の新しい形として今後も検討を行っていく。

2022年度は8月31日～9月2日の日程で鹿児島高専において「高専創立60周年記念特別企画 Well-being を志向する高専教育～“幸せな生き方”をはぐくむ高専～」をテーマに対面とオンラインのハイブリッド形式により年会講演会を実施する予定である。感染症対策を十分に行って、実りある会としたい。

## 1. 会務

- (1)総会 1回 (5月28日)
- (2)理事会 4回 (5月, 8月, 11月, 2月を予定)

## 2. 行事

- (1)年会・講演会 1回 (8月31日～9月2日)
- (2)連続シンポジウム 1回 (5月28日)

## 3. 学会誌の出版

編集作業の負担を軽減し学会誌印刷費を削減するため、2021年発行の学会誌より、年4回の学会誌のうち2冊を論文特集号としWEB掲載のみ(冊子体での配布を行わない)としている。2022年度も年4回の学会誌発行を維持していく。

冊子体により発行する学会誌では、教育改善や国際展開等、現状から将来に向けた展望を探る多様な特集企画や、学生の取り組み紹介を行っていく予定である。

今後も「魅力あふれる日本高専学会誌」とするため学会員には引き続き、情報提供とご支援をお願いする次第である。

2022年度の学会誌の発行は、

- 27巻2号 2022年4月 (発行済)
- 27巻3号 2022年7月 (第17回論文特集号, WEB掲載)
- 27巻4号 2022年10月
- 28巻1号 2023年1月 (第18回論文特集号, WEB掲載)

とする。

## 4. 研究助成

高専教育に貢献する研究への支援を行うため、研究の助成を実施する。

## 5. 技術者教育・研究活動への貢献

- (1)ブレイクスルー技術研究所(所長:大成博文)

引き続き、以下の課題に取り組む。

- 1)長野県阿智村プロジェクト

茨城県かすみがうら市において新たに設置された中規模植物工場の事例を長野県に阿智村の元村長に紹介し、阿智村への導入問題の検討を行う。

- 2)大分県国東プロジェクトを実行する。

マイクロバブル研究会を軸にして、地域再生の課題を検討する。

- ①七島イ部会

- ・引き続き、二期作栽培に関する研究を行う。Cコンサルタントの支援を受け、七島イの産業化を検討する。

- ②農業部会

- ・沖縄での野菜工場の成功を踏まえ、その増設による発展に寄与する。また、その野菜栽培における高温障害の克服法を検討する。新たな野菜洗浄装置を開発する。
- ・台湾における高温障害克服型の小規模野菜工場の試験プラントの稼働を支援する。

- ・地元農家と協力してネギ研究会におけるネギ栽培に関する支援を行う。とくに、さらなる光マイクロバブル技術の起用によって高品質化を図る。

### ③ペット洗浄部会

- ・地元のトリマーと協力してペットの口腔ケアに関する研究を行う。また、その取り組みを全国的に展開するために、世界的なトップトリマーのJさんにおける試験を開始する。

### 3) 北海道ウニ・昆布プロジェクト

新たに発足させたウニ加工過程の改善，ウニ専用の昆布養殖法について，北海道のウニ業者との共同研究を進める。昨年の実績を踏まえ，引き続き，これらの取り組みを発展させる。

### 4) 台湾プロジェクト

台湾の企業と協力して水質浄化装置の開発を行う。

本研究会活動を発展させることによって，ブレイクスルー技術研究所が支援し，協力活動をより一層発展させる。

また，植物工場プラントの立ち上げを支援する。

5) 大分県中津市のK整形外科病院および同病院介護老人保健施設との共同研究を発展させる。とくに，骨髄炎に関するより具体的な共同研究を発展させる。とくに，黄色ブドウ球菌などの常在菌について，その不活化法を検討する。

6) 大分県中津市の歯科医と協力して，口内細菌の不活化および歯科機器の新たな開発を行なう。とくに，歯周菌について，その不活化法を検討する。なお，6)と7)においては2つの補助金による共同研究の成果を踏まえた開発を発展させる。

### 7) コロナプロジェクト

引き続き，大学教員2名，高専教員1名，民間企業2名（代表者は大成博文（㈱ナノプラネット・大成研究所））によるコロナプロジェクトを継続して，コロナ情報に関する情報交流に努める。また，コロナ対応の機器開発を検討する。

### 8) 出雲プロジェクト

地元のトマト栽培農家とコンサルタントと協力して，ミニトマト栽培，薬草栽培を中心にした出雲プロジェクトを発展させる。

## 6. 研究会の申請

- ・一般科目の効果的AL教育法開発研究会

代 表：小泉卓也（宇部）

研究会会員：山下哲（木更津，副代表），小澤健志（木更津，事務担当），  
稗田吉成（大阪），丹羽隆裕（八戸），北野健一（大阪），大塩愛子（神戸），  
加田謙一郎（木更津），吉本弥生（石川），畑村学（宇部），原口治（福井），  
菊池秋夫（八戸），武長玄次郎（木更津），野口欣照（有明），  
柴山慧（広島商船）

## 7. その他

(1) 高専に所属する学生を対象とした表彰を行う。

1) 日本高専学会研究奨励賞（対象：専攻科生 10月頃募集予定）

2) 日本高専学会活動奨励賞（対象：学会誌に報告がなされた高専生 4月頃募集予定）

(2) 会員増加活動

(3) ホームページやメールマガジンを用いた学会活動の発信

## V 2022年度予算（案）

期間：2022年4月1日～2023年3月31日

### 1. 一般会計

#### 収入

項目	予算額	摘要
前年度繰越金	1,671,748	
会費(正会員)	1,659,000	237名×7,000円
会費(シニア会員)	80,000	20名×4,000円
会費(賛助会員)	70,000	7団体×10,000円
広告収入	60,000	
学会誌購読料	119,000	17団体×7,000円
学会誌別刷料・掲載料	150,000	
雑収入・利息	200,000	年会講演会実行委員からの返金
合計	4,009,748	

#### 支出

項目	予算額	摘要
学会誌発行費	800,000	学会誌2号分
年会運営費	500,000	年会講演会運営費
事務局経費	100,000	郵送費・サーバ代
理事会等会議費	400,000	年会講演会旅費
会員管理クラウドサービス利用料(初期費用)	55,000	
会員管理クラウドサービス利用料(年間使用料)	110,000	
学会誌編集委員会経費	300,000	執筆謝礼・編集用ソフトウェア代
論文審査委員会経費	100,000	査読謝礼
学会賞表彰選考委員会経費	80,000	表彰状・副賞, 通信・送料
公募型研究助成金	500,000	
予備費	1,064,748	
合計	4,009,748	

### 2. 特別会計

項目	予算額	摘要
収入 前年度繰越金	2,500,000	
支出 翌年度繰越金	2,500,000	

## 2021, 2022 年度 役員一覧 (任期: 2023 年第 29 回総会まで)

### 【理事会】

会 長 山下哲 (木更津)  
副 会 長 北野健一 (大阪)  
          鈴木昌一 (鈴鹿)  
事務局長 江原史朗 (宇部)  
理 事 宇野宏司 (神戸), 粳間由幸 (米子)  
          神田佳一 (明石), 土井智晴 (大阪)  
          南部幸久 (有明), 坂東将光 (近大)  
          松本高志 (阿南)

### 【監 事】

大谷 文雄 (米子), 権田 岳 (米子)

### 【顧 問】

梅津清二 (元大分), 萩原保一 (元大阪府立), 深川勝之 (元宇部), 大成博文 (元徳山),  
吉田喜一 (元東京都立), 久松俊一 (元木更津), 井上哲雄 (元鈴鹿), 氷室昭三 (元有明),  
赤対秀明 (元神戸), 山本孝子 (元徳山)

## 2021, 2022 年度 部会・研究所等担当者一覧

### 1. 研究部会 (部会長: 北野健一副会長)

(1) 学会誌編集委員会 ○学会誌の出版に関する業務全般を担当する.

編集委員長: 宇野宏司 (神戸)

委 員 員: 粳間由幸 (米子), 江原史朗 (宇部), 大塩愛子 (神戸), 北野健一 (大阪),  
坂井二三絵 (大阪), 坂東将光 (近大)

(2) 論文審査委員会 ○投稿論文の審査に関する業務全般を担当する.

委 員 長: 神田佳一 (明石)

副委員長: 山下哲 (木更津)

事務局長: 岡本昌幸 (宇部)

委 員 員: 井上千鶴子 (大阪), 柳原聖 (有明), 江原史朗 (宇部), 大淵真一 (神戸),  
明石剛二 (有明), 田中康德 (有明), 坪根弘明 (有明), 武内将洋 (明石),  
武長玄次郎 (木更津), 大槻香子 (釧路)

(3) 表彰選考委員会 ○日本高専学会研究奨励賞と活動奨励賞に関する業務全般を担当する.

委員長: 南部幸久 (有明)

委 員 員: 鈴木昌一 (鈴鹿), 坂東将光 (近大), 坪根弘明 (有明), 大河平紀司 (有明),  
石橋大作 (有明)

(4) 企画委員会 ○定例のシンポジウムの企画と次回年会の開催計画を立てるとともに,  
必要あれば新規事業について企画する.

委員長: 松本高志 (阿南)

委員: 山下哲 (木更津), 日高良和 (宇部), 北野健一 (大阪), 武長玄次郎 (木更津)

## 2. 運営部会（部会長：鈴木昌一副会長）

- (1) 財務委員会 ○財務方針と中期計画の作成を担当する。会員名簿管理を含む。  
委員長：榎間由幸(米子)  
副委員長：土井智晴(大阪府大高専)  
委員：大槻香子(釧路)，鈴木昌一(鈴鹿)
- (2) 役員選考委員会 ○役員選出年度の役員選考実施全般の業務を担当する。  
会長，副会長，事務局長  
なお，選挙管理委員（定員3名，委員長は委員からの互選）は会長の指名による。
- (3) 年会実行委員会 ○当該年度の年会実施全般の業務を担当する。  
委員長：山下哲(会長)  
事務局担当：鈴木昌一(副会長)
- (4) 広報委員会 ○ホームページとメーリングリストの管理運営，広報の企画実施を担当する。  
委員長：坂東将光(近大)

## 3. 研究所等

- (1) ブレイクスルー技術研究所  
所長：大成博文(ナノプラネット研究所)  
研究員：吉岩哲也(元大分高専，大分)，松村鎌三(不二マイクロバブル(株)，広島)  
研究協力員：高見徹(西日本工大，福岡)，大成由音(株)ナノプラネット研究所，代表取締役，国東)・会計担当，宮田直也(株)無限企画，代表取締役，福山)，熊谷久栄(美容院「9A」代表，仙台)，橋本昭夫(日本サルヴェージ株式会社，東京)，山本宏((株)あぴろード 代表取締役，京都)